

Q 7 高機能自閉症の子どもたちへの支援は、どのように行えばよいでしょうか

1 学習指導

(1) 授業態度

高機能自閉症の子どもは、知的能力の偏りやこだわりから、時間を忘れるほど取り組む教科もあれば、全く興味を示さずに取り組まない教科もあるといわれています。


まずは、集団の中にいることができるようになることを目標にして取り組みます。

次に、学習をすすめるにあたっては、何時何分まで行う、教科書の何ページまですすめるなど、本人に見とおしができるように配慮します。

自閉症は、いろいろな情報は耳で聞くことよりも目で見ることの方が入りやすい「視覚優位」といわれています。

学習の手順や何をどこまで行うかを文字化して、提示することが効果的であると思われる。また、絵や写真を活用することも方法としてあります。

机の位置は一番前の教師のすぐそばが、声をかけやすく余計な刺激が少なく、良いと考えられます。



泣いたり怒ったりすることは、できるだけ本人もしたくないのです

できるだけ情緒が安定した状態ですごしたいのです

他の子どもたちと同じようにしようとすると、トラブルが生じます。認知の特性を理解して、いかに適切に支援するかが課題です。

指導に関しては、耳で聞くより目で見えての理解の方が優れている。(視覚優位)

(2) ことばの理解

言語発達に偏りや遅れがあるために、文章の読解や作文などを苦手とすることが多くあります。

ことばかけについては「きちんとしましょう」というようなあいまいな表現を避け、具体的で見通しのもてるよう「椅子にすわりましょう」「何時何分までにこの問題に答えましょう」というような指示をします。

また、指示はゆっくりと簡潔にし、一度に複数の指示をしないようにします。複雑な指示の際は、自閉症の視覚優位という特性を考慮し、紙や黒板に書くようにします。

(3) 日程の変更

特別活動など日頃と違う生活の流れでは、日程などへのこだわりや活動の見通しがわからないことから、情緒が不安定になることがあります。また、遠足などでは初めての場所への不安があることもあります。事前にそれらへの対応を行っておく必要があります。

日程が変更になることを、カレンダーや時間割、行事の内容等を視覚情報化し、有効に活用して、事前に本人が理解できるようにします。

行事で

行事になると落ち着かない

泣いて参加をしない

どう理解するか

新任障害児学級担任研修会

日頃の生活の流れと異なるため、苦痛を感じる。そのうえで無理に参加させられると不適応となる。



事前に日程が変更となることを十分に伝えておく。

2 生活指導

(1) 友だちとの関係

高機能自閉症の子どもは、多くの子どもの中に入って協調して行動することが苦手です。そのために、遊びから外れてしまったりトラブルを起こしたりすることがあります。

教師が遊びや学習の場面で子どもたちの仲立ちとなり、活動を行い、相手を意識することや順番やルールを守るというスキルを学べるようにします。



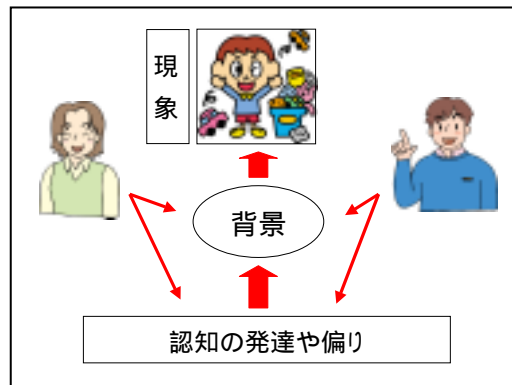
(2) 生活習慣や集団のきまり

身だしなみに無頓着であったり、行儀が悪い、社会のルールを理解して行動できないということがあります。

身だしなみに無頓着な場合は「きちんとしなさい」というようなあいまいな表現ではなく、具体的に改めることをその都度注意します。

使った道具などを片付けることができない子どももいます。次の活動に移る前に、使った道具を片付けることができたかどうか評価をすることなどで注意します。

花壇の水撒きが役割になっている子どもは、雨の日でも水撒きをしているということがあります。状況に応じてルールを柔軟に変えることが難しいためです。このような場合はロールプレイの方法で判断や対応を学びます。



高機能自閉症の子どもたちの行動は、理解しがたいものがあるかもしれませんが、しかし、そこには必ず背景が存在します。その部分を理解しようとしないと支援の方法は見つけにくいものです。

背景を理解するためには、子どもたちの認知の発達や偏りを把握することが不可欠です。

気になる行動や問題となる事柄の現象面のみにとらわれることなく、背景に目を向けることが大切です。

3 担任としての姿勢

学級担任一人が気になる子どものことを考えても、なかなか良い方策は浮かばないことがあります。一人で抱え込むのではなく、管理職や他の学級担任、養護教諭と連携し、多くの目で情報収集し、共通理解を図った上で方策を考えることが良いと思われます。

また、専門機関と連携をとる場合があります。その際は保護者の理解と協力が必要になります。「あなたの子どもさんは ができないから...」というようなネガティブな内容を話題にするのではなく、「子どもさんにとってより良い方法を一緒に考えましょう」という姿勢で話をすることが、理解につながるものと考えます。